

小宝島のちよの ひみつ

小宝島分校 3年

1. 調べようと思ったきっかけ

- 小宝島では、見たこともない生き物に出会うことが多いので、生き物に興味を持つようになった。
- たくさんのきれいなちょうが、この島に飛んでいるのをよく見ていたので、ちょうがどうやってこの島に飛んでくるのか調べようと思った。

2. 調べた方法

- ① 「長距離移動をする蝶, アサギマダラの話」(著:福田 晴夫)を読んで。
- ② 「鹿児島島のチョウ」(著:福田 晴夫)を読んで。
- ③ 島の方に教えてもらったこと。
- ④ インターネット



<目次>

- 1. 小宝島で見られるちょう**
- 2. 「マダラチョウ科」のとくちょう**
- 3. ちょうの「わたり」について**
- 4. マーキングの方法**
- 5. 調べた感想**

きれいなちょうを発見！！でも・・・



ちがいは

- ①大きさが一回り小さい
- ②模様 (もよう) がこまかい
- ③青色が強い

名前もにている

アサギマダラ

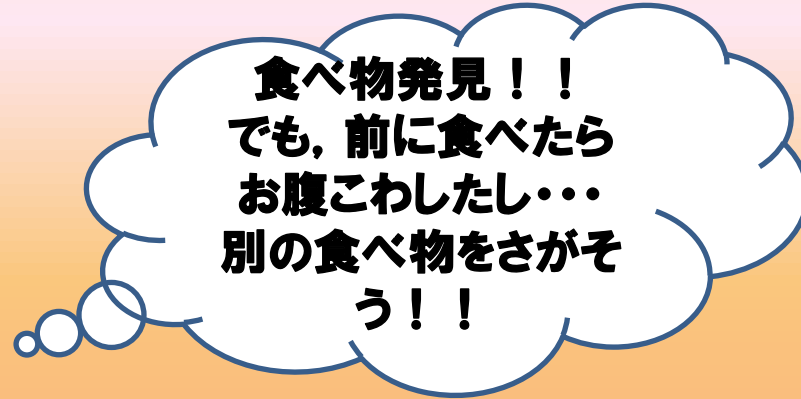
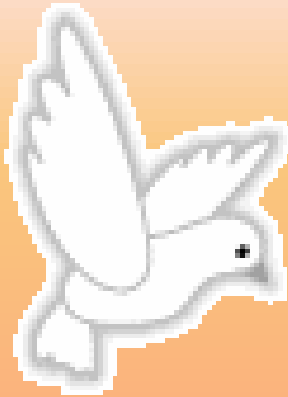


琉球
アサギマダラ



名前の中に「マダラ」という言葉が入っていたら、マダラチョウ科という種類のちょうということがわかった。

「マダラ」チョウ科のとくちょう



鳥がちょうをみつけた。でも、この鳥は前に一度マダラチョウ科のちょうを食べて、おなかをこわしてしまったので、べつのちょうをさがしてどこかへ飛んでいってしまった。

「マダラ」チョウ科のとくちょう

体の中に
毒(どく)を持つ



アルカロイドという
毒(どく)をもっていて
よかった～♪

毒(どく)をもっている理由

幼虫の時に、ガガイモ科という毒(どく)のある草を食べるから。



小宝島では、**ツルモウリ**という草を食べて成長している。牛も食べるとおなかをこわすことを知っているなので、牧場にたくさんあった。



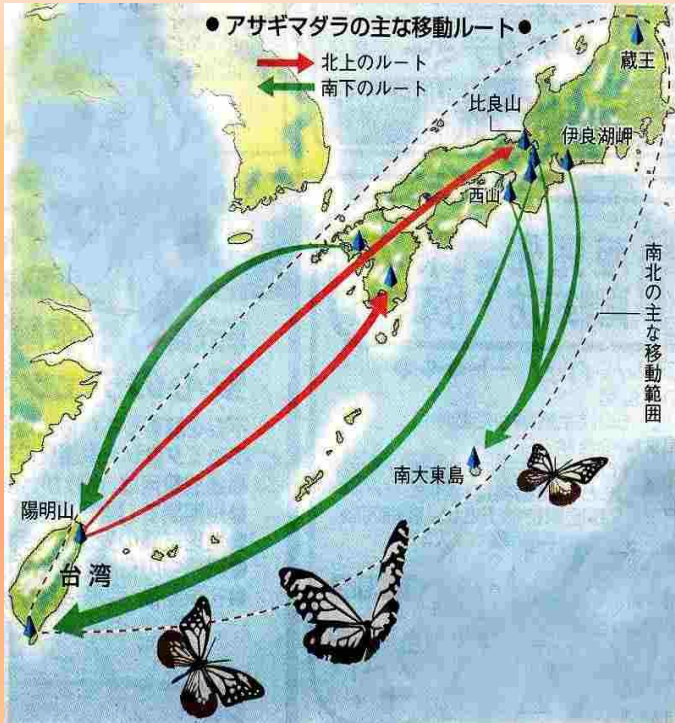
どうやって小宝島にきたの？

アサギマダラ



左の写真は、私がとった写真。このアサギマダラはどこから小宝島に来ているのか調べると、日本でも有名な「わたり」をしていることを知った。

「わたり」とは？



アサギマダラは、春から夏にかけては涼しい場所で過ごす。秋に海をわたり、冬の間は、あたたかい南の島のどくつで過ごす。そして、冬が過ぎると、ちょうの子どもたちは春から夏の初めにかけて南から北へ移動する。

季節によって長いきよりをいどうするわたりをくりかえしていることがわかった。

どうして「わたり」をしていることが
わかったの？

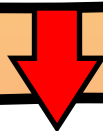
「マーキング」
というものをして
いるそうじゃよ。



マーキングとは？



マークをつける



ちょうを放す



ちょうをもう一度
つかまえる



マーキングの方法

黒の油性のフェルトペンではねに「しるし」をつける。アサギマダラのはねは、強く、ビニールのようにになっているが、はねをやさしく持たないといけない。

アサギマダラは「死んだふり」をすることもあるので、とちゅうでにげられないように注意するひつようがある。「しるし」は都道府県マークを書いたり、記号として自分の名前を入れたり、もう一度つかまえた人がれんらくをしてくれるように自分の電話番号を書く人もいることがわかった。



まだわかっていないちょうのふしぎ

- なぜ、海を渡るのか。
- 1000キロメートルもの長い距離を飛び続ける力がどこにあるのか。
- どうやって向かい風をのりこえて、海にうかぶ小島を探し出すのか。
- 海をわたっている間のえさはどうしているのか。
- 夜はどこで休んでいるのか。

など・・・

感想

小宝島のちょうを調べていろいろな不思議があることを知り、びっくりしました。マーキングをすることで、ちょうがどこまで飛んだのかわかるので、マーキングされたちょうをいつかつかまえてみたいと思いました。そして、自分でもマーキングしてみたいと思うようになりました。小宝島のちょうのひみつを知ることができてとても面白かったです。これからも、いろんなきれいなちょうを見たいです。

